

第5回 シリーズ「霊的集団の誤りを正す」第3弾

ともひさ 太田朝久

駒場集団の言説の誤り

本講座では、霊的集団「李勝哲・駒場久美子集団」の言説の誤りを取り上げます。彼らは、16万訪韓セミナーのみ言などを自分かつてに解釈し、自分たちの活動を正当化しようとしています。彼らの「誤った言説」を文鮮明先生のみ言を中心に正しながら、私たちが持つべき正統的な信仰とは何かについて説明します。KMS会員とAPT F会員は動画版シリーズ「霊的集団の誤りを正す」第3弾を、KMSウェブサイトで見聴できます。第1弾、第2弾も併せてご覧ください。(編集部)

十. 駒場集団の「摂理観」の誤り

一三八〜一三九ページ

駒場集団は、独自の摂理観を主張しています。彼らは次のように述べます。

「人類を救援するため1920年旧暦1月6日、再臨のメシヤをこの地(韓国)に送られたのです(駒場資料、一八二ページ)、「キリスト教が…メシヤを迎えるようになれば…1945年から1952年までの7年だけで、真の父母を通じた重生の役事(やくじ)で地上天国を建設することができました。ところがキリスト教がメシヤを受け入れることができないことによつて…1952年から1992年まで40年間のうち、21年間はメシヤの位置を捜し立てる3次にわたった7年路程を歩まれ、21年間はエバを探し立てるために、天使長を愛で屈服させるための路程を歩むようになります。そして1993年重生の役事を始めるために、1992年女性連合を創設して、象徴的な世界的聖霊の使命を果たすことができるように基盤を造成したのです」(同、

駒場集団は、本来、キリスト教がメシヤを受け入れていけば一九四五年から五年までの七年で地上天国を建設できたが、メシヤを不信したために一九五二年から四十年間の蕩滅(とうげつ)路程が必要となり、摂理は一九九二年まで延長されたといいます。この説明に関しては、真のお父様が語っておられる摂理観とほぼ一致しています。しかしながら、彼らの摂理観の誤りは、一九五二年から九二年までの四十年間を、それぞれ「メシヤの位置を捜し立てる二十一年」と「エバを探し立てるための二十一年」の二つに単純に分ける点です。このような摂理観は、真の父母様の生涯路程と懸け離れた内容であり、み言に根拠のないものです。

「統一教会を中心として(先生の)満四十歳の時である一九六〇年度までに、天的なプログラムを転換する基盤を築きました。それゆえに、世界は一九六〇年度から新しい歴史時代に入っていくというのです。…それはどうしてでしょうか。(真の)父母が来る時だということです」(『真の御父母様の生涯路程④』一九ページ)

真の父母様の生涯路程において、最初の重要な年は「聖婚式」を挙行された一九六〇年です。【図1】この年は、歴史上、初めて神の実体の「真の父母」が顕現できる道を切り開かれた年です。真のお父様は次のように語っておられます。

「統一教会を主として(先生の)満四十歳の時である一九六〇年度までに、天的なプログラムを転換する基盤を築きました。それゆえに、世界は一九六〇年度から新しい歴史時代に入っていくというのです。…それはどうしてでしょうか。(真の)父母が来る時だということです」(『真の御父母様の生涯路程④』一九ページ)

「統一教会自体においては、一九八五年までを荒野四十年路程として歩んでいきます。…荒野四十年路程なので、統一教会は迫害を受けるのです。…第二次大戦後の四十年を見てください。アメリカとソ連を中心とした一九四五年から一九八五年までの四十年間は、歴史時代において最も変化する時代です。ほかに類を見ないほど世の中が変化するのです」(『真の御父母様の生涯路程⑦』三八四〜三八五ページ)

「真の父母」が顕現された一九六〇年を起点に、血統転換である祝福式が、三家庭から始まって、三十三双、七十二双、百二十四双、四百三十双、七七七双、一八〇〇双、六〇〇〇双、六五〇〇双、三万双、三十六万双、四千万双と行われ、祝福の十二峠を越えて、真の父母様は、戦後、キリスト教の不信で失った摂理的基盤を取り戻していきました。

真の父母様は歴史的転換となった一九六〇年以降、摂理を切り開いていかれましたが、これらの外すことのできない祝福結婚をはじめ、重要な摂理が、駒場集団の摂理観には欠落しています。この一点を見ても、彼らの摂理観は、偽りの言説であることが分かります。

また、真の父母様は一九六〇年の「父母の日」から一九六八年一月一日までの七年路程を勝利し、「神の日」を宣布されましたが、この間、制定された「父母の日」「子女の日」「万物の日」「神の日」の名節は極めて重要です。さらに、第二次世界大戦終結の一九四五年から八五年までの荒野四十年路程も、外すことのできない

さらに駒場集団は、次のような摂理観



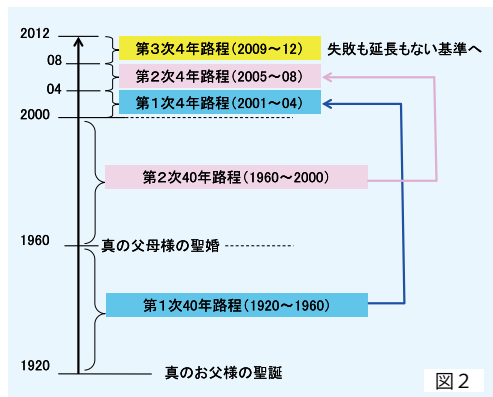


図2

全ての摂理を二〇〇〇年までに終えることを願っておられました。お父様は次のように語っておられます。

「二〇〇〇年までに、統一教会の責任者として、万民が行くべき方向、国家が行くべき一つの方向を決定しなければならぬ」という文総裁の使命が残っていることを知らなければなりません。……二〇〇〇年までです。その時、先生は八十歳になります。……先生は、八十歳で天国をスタートさせなければなりません」(同、

を主張します。

「一九九二年女性時代を宣布した時から二〇一三年までは(二次にわたる七年路程の) 21年です」(駒場資料、八ページ)、「一九九三年から一九九九年まで蘇生期の(七年) 期間と、二〇〇〇年から二〇〇六年まで長成期の期間になります。そして二〇〇七年にみ言を中心とした摂理が始まらなければならぬので……禧年(ヒトシゴト)なのです。……(しかし) 二〇〇七年に完全な聖霊のみ言が現われることができなかったため、(孝進様の犠牲と) 二〇〇八年へリ機事故の苦難路程を自ら歩んで行かれながら7・8禧年の条件を通して二〇〇八年を摂理的に二〇〇七年と同じ立場を立てられました」(同、一三九ページ)、「そして(み言を中心として) 完成期の期間をみ言に合うように歩んでいけば、摂理的な完成が成り立つのです」(同)

駒場集団は、一九九三年から二〇一三年までの二十一年を、一九九三年から一九九九年までの七年間、二〇〇〇年から

二〇〇六年までの七年間、二〇〇七年から二〇一三年までの七年間の三つに単純に区分します。

しかしながら、真のお父様は次のように語っておられます。

「本来は一九四五年から一九五二年までの七年間で、キリスト教文化圏を統一しようとしたのが神様のみ言だったのです。すべてのキリスト教文化圏が天のみ言を知らずに一つになれないことにより……一九九二年まで蕩滅して上がってこなければならぬのです。これが……世界的な荒野四十年路程です。一九四五年から四十年が過ぎて一九八五年までですが、それが七年が過ぎて一九九二年になりました」(『真の御父母様の生涯路程②』六九ページ)

「二〇〇〇年までの七年間で世界の行くべき方向を、再臨主を迎えて設定し、一つの世界にしなければなりません。一九四五年から一九五二年までの七年間で成そうとしたのですが、失敗したので蕩滅

復帰期間が残っているのです。この(二〇〇〇年までの七年) 期間に、全面的にお母様を中心として、女性運動を大々的に世界に拡張していかなければなりません」(『真の御父母様の生涯路程③』一五一ページ)

本来、キリスト教が果たすべき戦後の世界的七年路程が失敗したため、荒野四十年路程を経て、一九九二年まで蕩滅して上がってこられたというのです。そして、失敗した世界的七年路程の蕩滅期間として二〇〇〇年までの七年間があり、それを勝利するために一九九二年四月十日、「世界平和女性連合」を創設。真のお母様が総裁として立たれたといっわけです。

そして真のお母様は、真のお父様のみ言を宣布しながら世界巡回をされ、摂理的基盤を造成されました。この一九九二年から一九九九年までの七年路程の勝利で、戦後のキリスト教の失敗を蕩滅復帰されたのです。そして、お父様は一九九九年六月十四日、勝利されたお母様に「表彰牌」を授与されました。

ところで、本来ならば、真のお父様は

三三六〜三三七ページ)

真の御父母様は二〇〇一年一月十三日に「神様王権即位式」を挙行されました。しかし、統一教会の祝福家庭や食口が責任を果たせなかったことにより、結果的に摂理は四年遅れることになりました。真のお父様は、二〇〇四年七月八日、次のように語られました。

「今(数えて) 八十五歳ですが、八十歳でカナンを復帰して天下統一をしなければならなかったにもかかわらず、それができなかったのです。ですから……今から百二十年(百二十歳) になる時まで、すべてを終えなければなりません。……それを管掌する先生は、最初の四十年、八十歳までの四十年、今の四十年をそれぞれ四年として、二〇〇一年から二〇一二年まで、九十二歳を中心とする二〇一二年までにすべてを終えるのです」(『後天時代と真の愛の絶対価値』二五五ページ)

真のお父様は摂理が四年遅れたことを

蕩滅復帰するため、二〇〇一年から二〇〇四年までの「第一次四年路程」を、キリスト教の不信で失った一九二〇年から六〇年までの「第一次四十年路程」と見なし、二〇〇五年から二〇〇八年までの「第二次四年路程」を、一九六〇年から二〇〇〇年までの「第二次四十年路程」と見なし、そして、二〇〇九年から二〇一二年までの「第三次四年路程」の勝利をもって、失敗も延長もなかった基準を立てようとしたのです。【図2】

こうして、三次にわたる四年路程を経ながら、真のお父様は二〇一〇年七月から始まった「天地人真の父母定着実体み言宣布大会」で、既に「最終一体」を成し遂げられたこと、および摂理の「完成、完結、完了」を宣布していかれました。

このように、一九九三年から二〇一三年までの二十一年を単純に三次の七年間に区切る駒場集団の摂理観は、お父様が歩まれた摂理観を理解せず無視し、自らの立場を正当化するために作り上げた、誤った摂理観であることが分かります。